



株式市場が大きく変動する局面では、「今は、いったん売却した方がよいのではないか」「再び下落した場面で買い直すのはどうだろうか」といった、売買のタイミングに関するご相談をいただくことがあります。

足元の日本株市場は国内外の情勢を背景に値動きの荒い展開が続いており、先行きに不安を感じる場面も少なくありません。

そこで今回は、日本株の動きを振り返りながら、そうした局面だからこそ、改めて考えたい「**マーケットに居続けることの大切さ**」についてお伝えします。

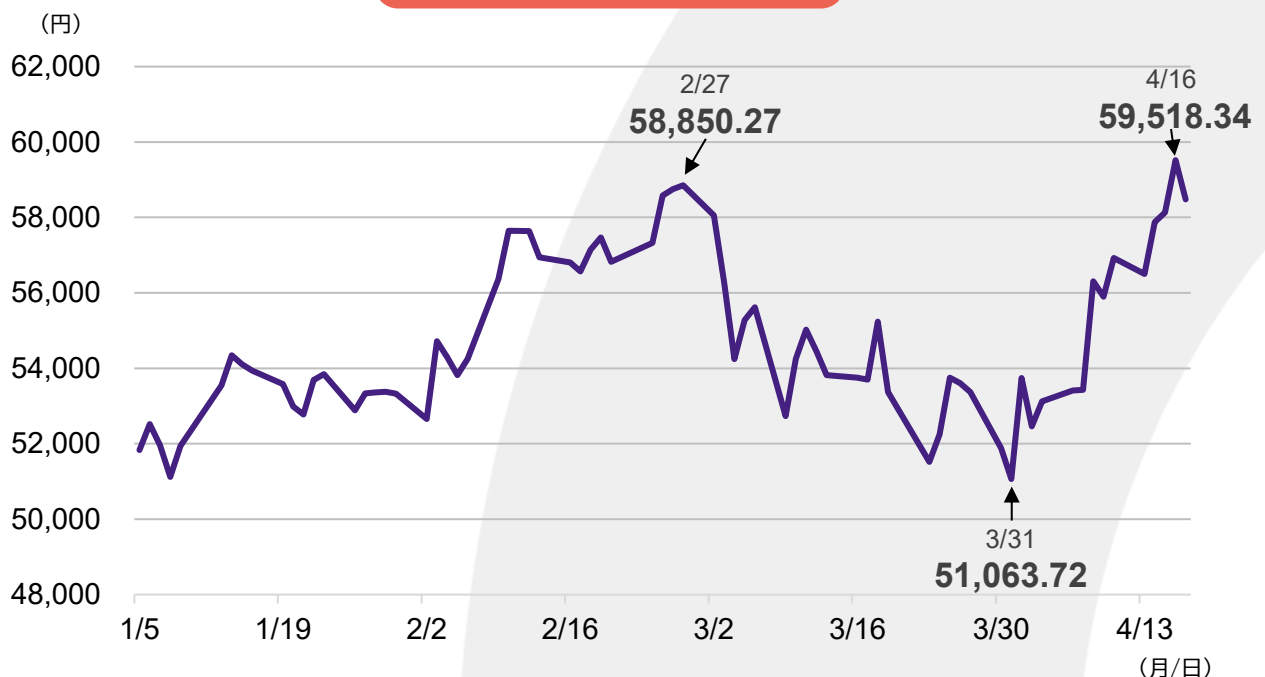
日本株市場の動きを踏まえ、マーケットに居続けることの大切さを考えてみましょう！



中東情勢の影響を大きく受けた日本株市場

日経平均株価は、2月の衆議院選挙における与党の大勝を受け、政権基盤の安定や積極的な財政政策への期待が高まり、史上最高値を更新しました。しかし、直後には中東情勢の緊迫化を受けて株価が急落し、値動きの荒い展開が続いています。足元では、米国とイランの戦争終結への期待感が高まり、4月16日には終値で最高値を更新しました。(2026年4月17日現在)

2026年の日経平均株価の推移



期間: 2026年1月5日～2026年4月17日

信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成
上記は過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

売買のタイミングを計ることをお勧めしない理由

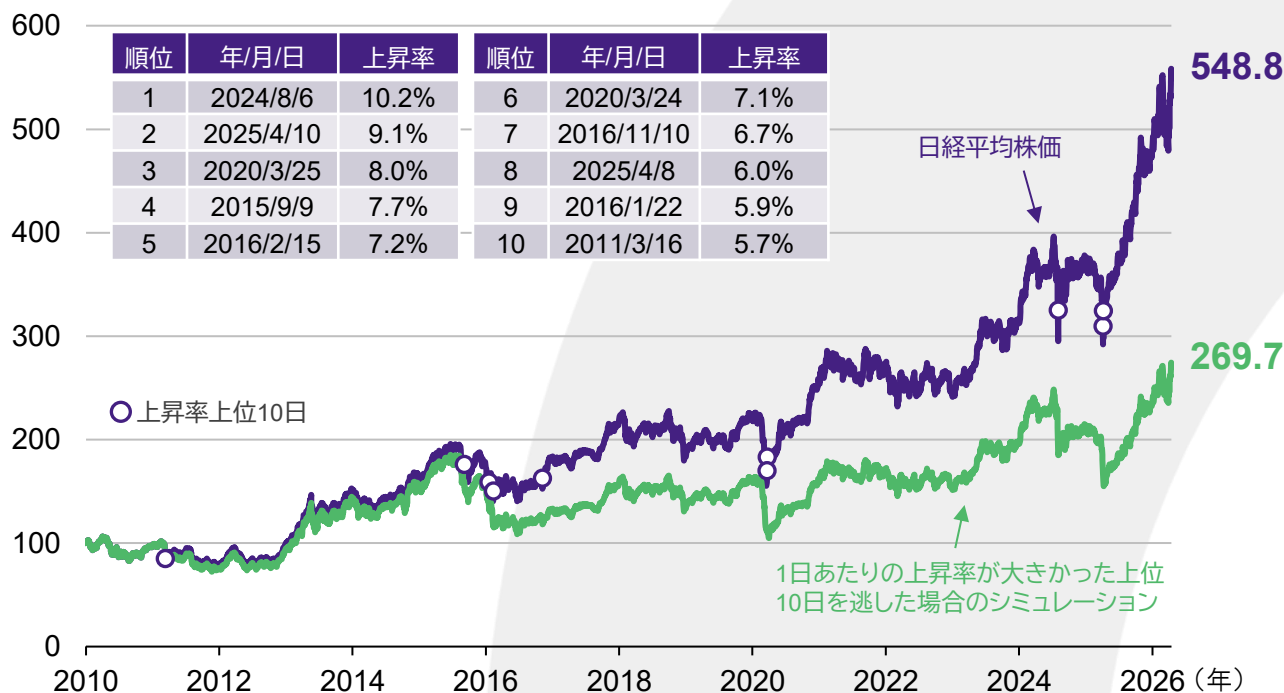
「高値で売って、安値で買い戻すことができれば」と考える方は少なくないようです。しかし、こうした売買のタイミングを計ることは主に2つの理由からあまりお勧めできません。

1つ目の理由は、最良のタイミングで売買を行なうことはプロの投資家であっても難しいということです。例えば、停戦期待を背景に株価が上昇した直後であっても、戦況の変化や米国のトランプ大統領の発言ひとつで、市場の雰囲気が一変することがあります。こうした動きを事前に正確に読んで売買を行なうことは難しいと言えます。

2つ目の理由は、大きく上昇する日を逃してしまうと、リターンに大きな差が出るということです。過去約16年間の日本株市場を振り返ると、株価は上下を繰り返しながらも、長期的には上昇してきました。その中では、短期間で大きく上昇する局面が何度も見られます。売買のタイミングを計ろうとして市場から離れてしまうと、こうした上昇局面を逃してしまう可能性があります。

下の表は、その期間における1日あたりの上昇率が大きかった上位10日を示したものです。折れ線グラフの緑色の線は、これら10回の上昇時に投資していなかった場合の推移を示しています。極端な例ではありますが、約16年間継続して保有した場合（紫色の線）と比べると、わずか10回の上昇を逃しただけでも、リターンに大きな差が生じることが分かります。

日経平均株価の推移と1日あたりの上昇率が大きかった上位10日を逃した場合のシミュレーション



期間:2010年1月4日～2026年4月17日 2010年1月4日を100として指数化
信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成
上記は過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

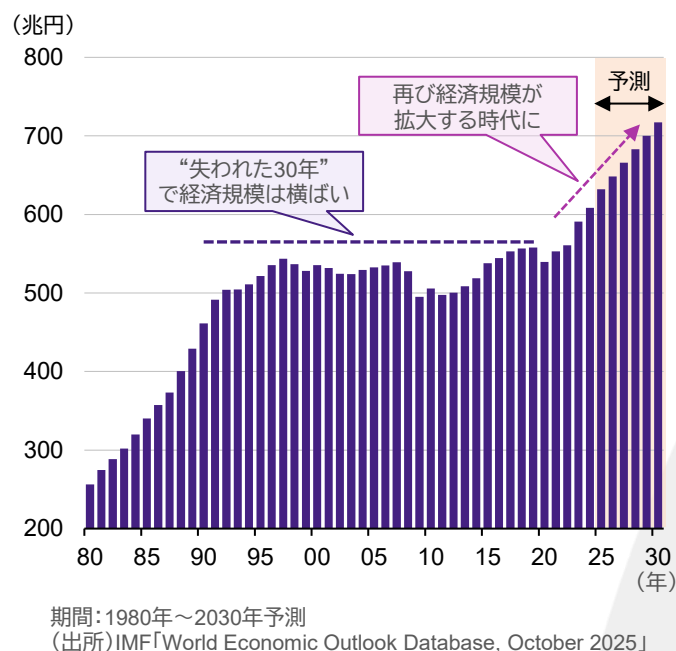
長期の資産形成にとって必要なことはマーケットに居続けること

日本経済はデフレからインフレへの転換が進みつつあります。物価上昇とともに、賃金や企業収益の改善が見られ、経済は緩やかな好循環に向かう期待が高まっています。加えて、高市政権による「責任ある積極財政」のもと、デジタル、脱炭素、防衛、先端技術など成長分野への投資支援が進められており、日本企業の競争力強化につながる可能性があります。

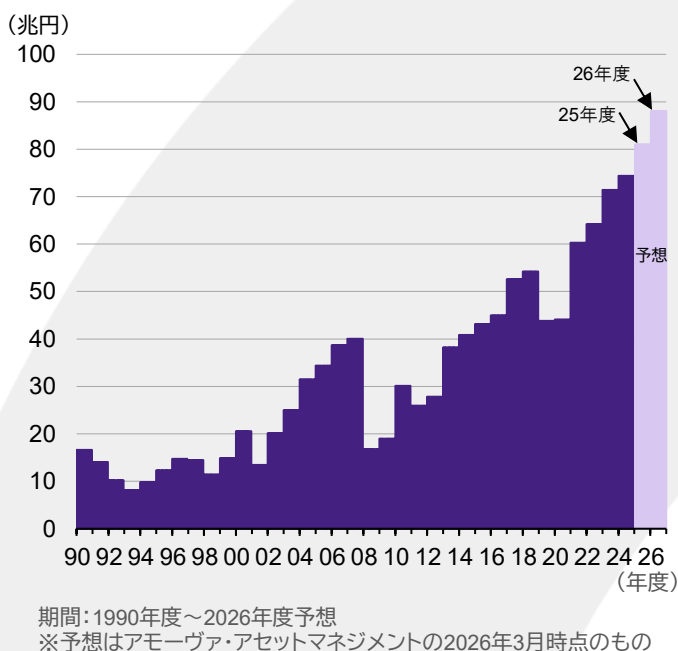
こうした構造的な環境変化や政策などを踏まえると、日本株は短期的な値動きの影響を受けながらも、長期的には成長が期待できる資産のひとつと位置づけることができると言えそうです。

長期の資産運用において大事なことは“マーケットに居続けること”です。目先の市場動向に一喜一憂するのではなく、日本株を長期の資産運用の1つとして捉えていただければとアモーヴァ・アセットは考えています。

日本の名目GDP 推移



上場企業(除く金融)の経常利益合計の推移



上記は過去のもの及び予想であり将来の運用成果などを約束するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。



コールセンター
0120-25-1404
営業時間 平日 9:00-17:00



アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。